

考えよう 持続可能な社会、秋田の未来

地球温暖化対策とエネルギー自給率の向上のため、日本を含む世界各国が再生可能エネルギーの導入を推進する中、本県でも太陽光、バイオマス、風力、地熱といった再生可能エネルギーが積極的に進められている。県内で再生可能エネルギーに取り組むレノバ(東京、木南陽介社長)の須山勇取締役社長執行役員C.O.O.に、同社の歩みや事業展望を聞いた。また同社が参画する木質バイオマス発電会社「ユニテッドリニューアブルエナジー」(U.R.E、秋田市)を経営するユニテッド計画(湯上市)の平野久貴社長と、須山副社長が対談。再生可能エネルギーの思いや意義を語り合った。

再エネ広げ 成長の礎に

平野久貴氏 対談 須山勇氏
(ユニテッド計画社長) (レノバ副社長)

□ 2社の出会い
平野 ユニテッド計画は、2011年から廃棄物を燃料にした発電事業を行ってきた。再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT)が導入された12年、それまでに培った廃棄物発電の技術を活用し、環境負荷の少ないバイオマス発電への参入を決めた。レノバとの出会いは11年5月ごろ。東日本大震災で被災した仙台湾周辺の廃棄物処理を一緒に担いました。その後、再生可能エネルギーの思いや意義を語り合った。



ひらの・ひさき 1967年、湯上市生まれ。90年平野建設(現ユニテッド計画)取締役。99年からユニテッド計画取締役社長。2013年ユニテッドリニューアブルエナジー取締役社長。秋田経済同友会代表幹事。秋田市住。

変革の時を逃さずに平野氏

志、使命感に圧倒されました。平野 レノバは専門性の高い人材がそろっており、資金調達の書類作成や事業の組織能力が非常に高く、事務の知識も備えています。ユニテッド計画の足りない部分を補完して欲しい、私は林業業者最後の詰めに傾注することができました。須山 地元企業のネットワークや人材、資金調達のノウハウとプロジェクト組成の専門性の融合が、この事業の成功の鍵だったと思います。

平野 秋田は林業県ですが、住宅や建築向けの木材の需要は減っています。バイオマスは毎月一定量の燃料を必要としますから、林業経営の安定化と雇用の維持に結びつきます。物流業にも経済波及効果が生まれます。U.R.Eは当初約30人を採用しました。ほとんどが地元若者です。素人集団でしたが、県

内の人材でもしっかりやれると示すことができました。須山 U.R.Eは大きな発電所であれば大都市圏の企業が運営し、人材も大都市から調達する例が珍しくありません。地元で経済と雇用のサイクルをつくり上げた努力と苦労は大きなものだったと思います。当初、U.R.Eの燃料全体に占める県産材の割合は約7割でした。現在は9割近くに増えています。地産地消の発電事業の成功例です。この知見を生かして、レノバは

ユナイテッドリニューアブルエナジー 2013年創業。レノバ、ユニテッド計画などが出資する。県産未利用材を主な燃料としてバイオマス発電を行い、電気事業者に売電している。発電所の最大出力は約2万キロワット。年間発電量は一般家庭約4万世帯分に当たる1億3千万キロワット時。資本金3千万円。20年3月末の売上高は48億7600万円、従業員数32人。

レノバ 2000年創業。再生可能エネルギーの新規開発・運営管理を手掛ける。日本とベトナムの計25カ所で発電事業を展開。このうち国内12カ所の発電所が稼働中。資本金21億7500万円。20年3月末の売上高は連結で194億4900万円、従業員数206人。

経済発展、貢献したい 須山氏

北九州、徳島、静岡、仙石、岩手などでも大型バイオマス発電所の開発を掛けている。東北、北関東などでもバイオマス発電所の建設準備が進んでいる。平野 U.R.Eの3倍以上の規模となる仙石エナジーのバイオマス発電所も、レノバと一緒です。被災した仙石エナジーの活性化につながるでしょう。レノバは東京の会社ですが、地方のニーズは再生可能エネルギーの分野で変革期を迎えています。この機会を逃さず、人口100万人を切った秋田県

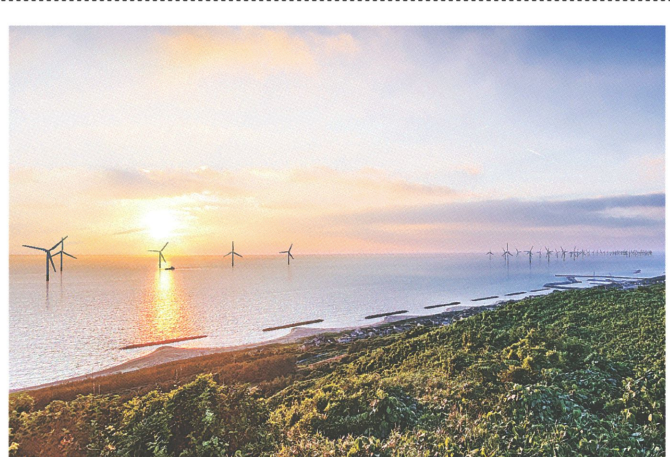
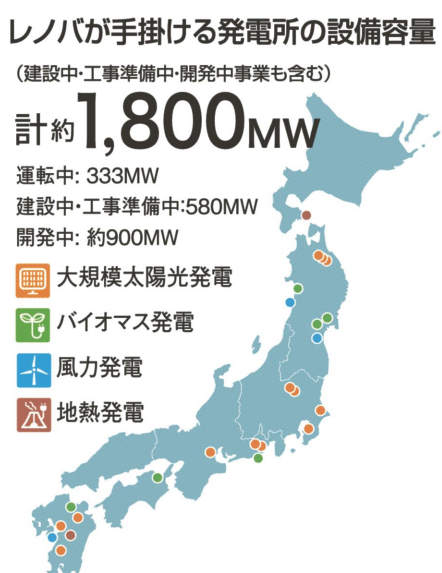


すやま・いさむ 1966年、東京都生まれ。日本電信電話(現NTT)を経て、ジャスダック上場の通信ベンチャーの社長。その後、2016年レノバに参画し、17年から同社取締役副社長執行役員C.O.O.。19年秋田由利本荘洋上風力合同会社・代表職務執行者。由利本荘市住。

―レノバは今年5月、20周年を迎えた。歩みは。 「環境課題を事業で解決する会社として2000年に創業しました。当初はリサイクル事業のコンサルティングから始まり、その後は実際にリサイクル工場を展開。再生可能エネルギーの導入は12年。大規模太陽光発電所の次にU.R.Eの設立に参画し、当時東北最大規模となった木質バイオマス専焼の発電所を稼働させました。他に風力、地熱発電の開発も手掛けており、現在は再生可能エネルギーの発電事業者になりました」 ―再生可能エネルギーの発電事業者として唯一、東証に上場。業績を伸ばした要因は。 「発電事業の企画・開発から運営までを一貫して責任を持って行うことがレノバのビジネスモデル。これにより地域の皆さまから信頼を得ることで事業を拡大してきました。経営理念は『グリーンかつ自立可能なエネルギー・システムを構築し、重要な社会的課題を解決する』。社員はこれを本気で実現しようと日々全国で汗を流しています。地域の皆さまと相談しながら緻密な事業計画を立て、膨大な仕事をこなす姿が事業を支えてくださる関係者に伝わり、事業機会が増えてきたと感じています。いい加減な事業をして地元を迷惑を掛けることはできません。何かあっても地域と共存共栄できる事業をやろうという大前提で計画をつくり、最先端の技術でそれを支えています」

須山氏に聞く 創業20年、信頼が支え

―太陽光、バイオマス、風力など複数の事業を東北で手掛けている。東北、本県の現状をどうみているか。 「東北、秋田は多様な再生可能エネルギー資源を備えています。複数の資源があることは、とても大きな強みであると思います。今後、再生可能エネルギーを日本の主力電源とすることが政府から発表されており、それを支える産業は大きな発展が見込めるので、多様な再生可能エネルギーを持つ秋田は大きなチャンスの中にあるといえます」 ―今後力を入れる事業は。 「一つは洋上風力です。日本で再生可能エネルギーの主力電源になっていく中で鍵を握る分野でもあり、この事業に力を尽くしたい。もう一つは海外事業です。脱炭素は世界的な課題で、事業は日本にとどまりません。今、ベトナムでの風力発電など複数の国でプロジェクトを手掛けており、今後電力需要が拡大する東南アジアで貢献できる余地は大きいと思います。レノバはエネルギーで困ることのない未来をつくることを目指しています。安全・安心で、環境負荷が少なく、経済的なエネルギーを継続的に供給し続ける仕組みをつくるため、努力していきます」



由利本荘市沖で計画されている洋上風力発電所の完成予想図(秋田由利本荘洋上風力合同会社提供)

企画・制作 秋田魁新報社営業局



太陽、海風、森、大地。
あなたの頭上にひろがる自然のちからを、
あなたの足もとで育まれる自然のめぐみを、
大切に引き出していくために。

いつでも、いつまでも。
一緒に考え、動き、分かちあい、支えあいながら、
このまちに生きるあなたの想いに応えていくために。

私たちは、自然と、あなたと、どこまでも歩んでいく。
はじめは小さく、ささやかかもしれない。
けれど、今ともに踏み出すこの一歩が、
エネルギーで困ることのない100年後をつくっていく。

ひたむきに、ひたすらに、できることをすべてを尽くして。
再生可能エネルギーで、ゆたかな地球と暮らしを次の世代へ。
私たちは、レノバです。

自然と、あなたと、ともに未来へ。

RENOVA

株式会社レノバ
www.renovainc.com

